

川崎市における蛾類幼虫の記録

横田 光邦*・三田村 瞬*

Notes on Moth Larvae from Kawasaki City

Mitsukuni Yokota* and Shun Mitamura*

はじめに

昆虫の生態は最近の気候変動や人流・物流の多様化などの影響で、大きく変化してきている。温暖な地域の昆虫が北上してきたり、その反面在来種が減少したり、さらに外来種の侵入など、様々な変化が各地から報告されている。

かわさき自然調査団昆虫班では、蛾類成虫の記録を中心に行ってきたが、2023年から2025年にかけて幼虫の調査も実施した。その結果、新たに見つかった種類や長期間確認ができなかった在来種の再発見など、特筆すべき蛾類幼虫の記録を報告する。

観察記録

(1) オキナワカギバ *Oreta loochooana loochooana* Swinhoe, 1902

[多摩区] 4exs., 多摩区枳形, 30-XI-2024, 横田光邦・三田村瞬確認; 6exs., 多摩区枳形, 1-XII-2024, 三田村瞬確認

温暖な地域に産する本種は、神奈川県内では三浦半島で確認されていて(中島・阪本, 2018)、川崎市からの記録はなかった。食餌植物としてサンゴジュ *Viburnum odoratissimum* Ker Gawl. var. *awabuki* (K.Koch) Zabel (1902) 等の常緑ガマズミ科 *Viburnaceae* が知られている(岸田, 2011a)。

初冬の蛾類幼虫調査にて、生田緑地内の七草峠に植栽されているサンゴジュで若齢幼虫4個体、伝統工芸館付近に植栽されているサンゴジュから中齢幼虫2個体、梅園付近に植栽されたサンゴジュから中齢幼虫4個体(図1)を発見した。いずれも葉上に静止して、表面を舐食した食痕が見られた。梅園付近で確認した個体の中には寒さのためか、すでに死んでいる個体もいた。

近似種のアシベニカギバ *O. pulchripes* Butler, 1877 やクロスジカギバ *O. turpis* Butler, 1877 は幼虫で冬眠するため、冬期は食餌植物の樹皮の割れ目や枝などに糸を吐きじっとしているが(鈴木ほか, 2024)、本種

は摂食を続けているようである。

見つけた幼虫を飼育したところ、1月20日に2個体が羽化した。

その後の探索では本種が見つかっていないことや冬眠せずに摂食を続けていたことなどから、一時的な発生であった可能性が高く、川崎市での越冬は難しいと考える。



図1. オキナワカギバの中齢幼虫

(2) ミナミクロホシフタオ *Dysaethria meridiana* (Inoue, 1982)

[多摩区] 3exs., 多摩区枳形, 22-XII-2024, 横田光邦・三田村瞬確認; 2exs., 多摩区枳形, 23-II-2025, 横田光邦確認

[宮前区] 1ex., 宮前区神木本町, 3-III-2024, 三田村瞬確認; 2exs., 宮前区神木本町, 18-III-2025, 三田村瞬確認

本種の分布は関東地方南部以西となっていて(岸田, 2011a)、東京都からは記録がある(フッカーS, 2015)が、神奈川県からの明確な記録がなかった(中島・阪本, 2018)。成虫は近似種のクロホシフタオ *D. moza* (Butler, 1878) に非常に似ていることから、見落としていた可能性がある。食餌植物はサンゴジュなどのガマズミ科が知られている(岸田, 2011a)。

宮前区の東高根森林公園に植栽されているサンゴジュにおいて、2024年3月3日に本種終齢幼虫を確認、翌年の3月18日にも若齢幼虫と亜終齢幼虫の2個体を確認した。

*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

生田緑地では、2024年12月22日に伝統工芸館付近のサンゴジュで若齢幼虫から中齢幼虫までの3個体を発見した。この日の気温はかなり低下していたが、幼虫は葉裏に静止し、若齢幼虫2個体は表面を舐食、亜終齢幼虫1個体は葉の縁から摂食していた(図2)。さらに、おし沼広場へ抜ける歩道脇に植栽されたサンゴジュの大木より、2月23日に2個体の若齢幼虫を見出した。

その後、生田緑地で採集した個体は3月7日から順次羽化し、本種であることが確認できた。また、野外においても成虫を2022年11月16日と2025年4月27日に確認していて、いずれも西口トイレの灯りに飛来したものである。これらのことから、川崎市では定着しているようである。



図2. ミナミクロホシフタオの亜終齢幼虫

(3) トシマカバナミシヤク *Eupithecia tenuisquama* (Warren, 1896)

[多摩区] 5exs., 多摩区枳形, 17-XII-2023, 横田光邦・三田村瞬確認; 2exs., 多摩区枳形, 11-I-2025, 横田光邦・三田村瞬確認

本種は神奈川県内の広範囲に分布していて(中島・阪本, 2018)、成虫は3~4月と10月の年2回発生する。食餌植物はサザンカ *Camellia sasanqua* Thunb. などツバキ科 Theaceae の花が知られている(岸田, 2011a)。

生田緑地では、サザンカが広範囲に植栽されていて、特に見晴らしデッキ付近にあるサザンカの花では本種の幼虫が良く見られる(図3)。花びら、雄蕊、雌蕊を摂食していて、古くなって地面に散ったこれらからも見出せる。

冬期に老熟した幼虫は土中で蛹化し、春に羽化する。2023年12月17日に採集した幼虫を飼育したところ、翌年の1月14日に土中に潜り、3月31日に羽化した。

春の成虫世代(一化目)の幼虫が何を食べているのかはわかっていない。時期から考えると、ヒサカキ *Eurya japonica* Thunb. var. *japonica* (1783) の花などを食べているのかもしれないので、今後の探索課題である。また、近似種のアキカバナミシヤク *E. subfumosa* Inoue, 1965 は年一化で晩秋に成虫が見られるが、こちらは幼虫の食餌植物がわかっておらず、探索を続けている。



図3. トシマカバナミシヤクの終齢幼虫

(4) カレハガ *Gastropacha orientalis* Sheljuzhko, 1943

[宮前区] 1ex., 宮前区水沢, 28-VI-2025, 三田村瞬確認; 2exs., 宮前区水沢, 27-VII-2025, 三田村瞬確認

本種は神奈川県内全域から記録があり、川崎市では、麻生区黒川、生田緑地(中島・山本, 2004; 中島・阪本, 2018)の記録がある。

菅生緑地西地区にある水沢の森に植栽されているサクラ属 *Cerasus* の一種の樹上より糸でぶら下がる中齢幼虫1個体を2025年6月28日に発見、飼育したところ8月12日に♂が羽化した。同年7月27日にも同じ木に止まる終齢2個体を確認(図4)、内1個体を飼育したところ8月18日に♀が羽化した。

日中、幼虫は食餌植物の枝や幹にいて、樹皮の模様に擬態をしている。食餌植物はバラ科 Rosaceae、ヤナギ科 Salicaceae が知られ(岸田, 2011a)、ブナ科 Fagaceae やツツジ科 Ericaceae でも採集・飼育したことがあり(横田, 未発表)、広食性であると考えられる。そのため、野外ではなかなか見つけることができない。



図 4. カレハガの終齢幼虫

(5) クロハウジャク *Macroglossum saga* Butler, 1878
 [麻生区] 1ex., 麻生区百合丘, 26-V-2025, 三田村瞬確認

本種は神奈川県内の全域から確認されているが、川崎市からの記録はなかった(中島・山本, 2004)。幼虫の食餌植物はユズリハ *Daphniphyllum macropodum* Miq. subsp. *macropodum* (1867) で、植栽されているものを良く見かけるが、樹林地でも見られる。成虫は新芽に産卵し、孵化した幼虫は新芽を食べて育つので、芽吹きのと時期と産卵から若齢幼虫が育つ時期が合わないと、生息できない。

麻生区の百合丘第 5 公園に植栽されているユズリハより、2025 年 5 月 26 日に若齢幼虫 1 個体(図 5)を採集した。

近隣の東京都町田市成瀬台においても、2025 年 3 月 26 日にユズリハより 4 卵を採集し、5 月 14 日に羽化させた。



図 5. クロハウジャクの若齢幼虫

成虫は海上で採集されており(朝比奈・鶴岡, 1968)、移動性があるため分布が広いと考えられ、寒冷地ではブナ帯林床にあるエゾユズリハ *D. m.* Miq. subsp. *humile*

(Maxim. ex Franch. et Sav.) Hurus. (1954)、亜熱帯海洋性気候の八重山列島ではヒメユズリハ *D. teijsmannii* Zoll. ex Kurz (1864) より幼虫を見出すことができる。これらのことから、神奈川県内でも各地に飛来し、単発的に発生することがあるのかもしれない。一方で、成虫で冬眠することから、近隣地域で発生していることも考えられる。

(6) タカサゴツマキシヤチホコ *Phalera takasagoensis* Matsumura, 1919
 [多摩区] 3exs., 多摩区枳形, 7-IX-2025, 横田光邦確認; 3exs., 多摩区枳形, 9-IX-2025, 三田村瞬確認

本種は関東各県で記録があるが、神奈川県内では今までなかった(中島・阪本, 2018)。成虫は近似種のツマキシヤチホコ *P. assimilis assimilis* (Bremer & Grey, 1852)、ムクツマキシヤチホコ *P. angustipennis* Matsumura, 1919、クロツマキシヤチホコ *P. minor* Nagano, 1916 に酷似していることから、以前より混棲していた可能性がある。

生田緑地の中央広場の西側にあるコナラ *Quercus serrata* Murray (1784) で、ツマキシヤチホコの幼虫群を観察していた際に、タカサゴツマキシヤチホコの亜終齢幼虫から終齢幼虫 3 個体を発見した(図 6)。2 日後にも追加で 3 個体を同じ木で確認した。

本種は中齢幼虫までは群棲するが、亜終齢幼虫以降は分散して単独となる。細枝や葉裏にいて、刺激を与えると最初は頭部と尾部端を持ち上げて威嚇するが、さらに刺激を続けると落下する。これは近似種でも見られる特徴である。



図 6. タカサゴツマキシヤチホコの終齢幼虫

本種とツマキシヤチホコが同所で同時期

に見られることは珍しく、近隣では東京都八王子市にある高尾山で確認している(横田, 未発表)。

(7) ムラサキシヤチホコ *Uropyia meticulodina* (Oberthür, 1884)
[多摩区] 4exs., 多摩区中野島, 13-VI-2025, 横田光邦・三田村瞬確認
[宮前区] 8exs., 宮前区水沢, 12-VII-2025, 三田村瞬確認

本種の神奈川県内の分布は県西部の丹沢や津久井方面のみが知られていた(中島・阪本, 2018)が、その後川崎市からの成虫記録として高津区北見方よりあった(宮内ほか, 2024)。

筆者らは、多摩川河川敷のオニグルミ群落に生息しているとみて、広範囲に群落がある中野島付近を調査した結果、2025年6月13日に亜終齢幼虫(図7)3個体と終齢幼虫1個体を確認できた。

菅生緑地西地区にある水沢の森にもオニグルミの疎林があることから、以前から本種の生息調査を行っていたところ、2025年7月12日に8個体を発見することができた。

本種の分布は食餌植物であるオニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitam. (1949) に依存する。多摩川の下流域には各所にオニグルミの群落が見られることから、河川敷の生息地がさらに見つかるものとする。生田緑地内にもハンノキ林付近に数本のオニグルミがあるが、今のところ幼虫は見つかっていない。



図7. ムラサキシヤチホコの亜終齢幼虫

なお、本種の調査を行った両地域では、モンホソバスズメ *Ambulyx schauffelbergi* Bremer & Grey, 1853 も確認できた。特に中野島では6月13日に卵から成虫までの全ス

テージが見られ、生息密度が高いこともわかった。

(8) オオモクメシヤチホコ *Cerura erminea* (Esper, [1783])
[宮前区] 1ex., 宮前区水沢, 5-VII-2025, 三田村瞬確認; 1ex. (繭), 宮前区水沢, 19-VII-2025, 三田村瞬確認

本種の神奈川県内の記録は、2022年および2023年に麻生区白山にて採集された成虫について報告した(横田ほか, 2024)。

幼虫について川崎市市内での探索を続けていたところ、菅生緑地西地区にある水沢の森にて歩道を徘徊していた老熟幼虫を2025年7月5日に発見した(図8)。既に体色が赤茶色に変色していて、持ち帰ったその日のうちに樹皮上で繭を完成させた。この個体は残念ながら羽化することはなかった。その後の7月19日に、最初の発見場所の近くに植栽されているヤマナラシ属 *Populus* の一種の幹で繭を見つけ、野外で観察を続けたところ羽脱した痕跡があり、当地での発生を確認した。

本種の食餌植物であるヤマナラシ属の樹木は都市公園に植栽されていることから、都市部でも記録が多い。川崎市市内でも植栽されているところがあるので、そのようなところを探すと本種を見つけられるかもしれない。



図8. オオモクメシヤチホコの老熟幼虫

(9) プライヤアオシヤチホコ *Syntypistis pryeri* (Leech, 1899)
[宮前区] 1ex., 宮前区水沢, 19-IX-2023, 三田村瞬確認; 1ex., 宮前区水沢, 5-VII-2025, 三田村瞬確認

本種の神奈川県内の記録では、2000年以

前は津久井・丹沢方面のみであったが、2000年代には、生田緑地 (佐野ほか, 2001; 中臣ほか, 2009)、柿生 (山内, 2008) で記録されている。その後の2010年代以降は川崎市内の記録がなくなり、再発見が望まれていた。

菅生緑地西地区にある水沢の森にて2023年9月19日に幼虫探索中、クヌギ *Quercus acutissima* Carruth. (1862) で本種の終齢幼虫1個体を発見、最後の発見から実に16年ぶりであった。さらに2025年7月5日にも同地においてクヌギより終齢幼虫1個体を見出した (図9)。

本種は自然度の高い場所で見られることが多く、クヌギを好むようである。中齢幼虫までは群棲するが、その後は分散し、終齢幼虫は単独となる (YAMKEN, 2022)。背面の赤色紋は個体変異があるが、ブナ科を食べるアオシャチホコ属 *Syntypistis* は他にいないので、区別は容易である。



図9. プライヤアオシャチホコの終齢幼虫

(10) ヤスジシャチホコ *Epodonta lineata* (Oberthür, 1880)

[多摩区] 2exs., 多摩区枡形, 26-X-2024, 横田光邦・三田村瞬確認; 2exs., 多摩区枡形, 27-IV-2025, 横田光邦・三田村瞬確認

本種の川崎市での記録は2000年以前には黒川・枡形山 (現生田緑地)・柿生で記録が多く見られたが (中島・山本, 2004)、それ以降では2008年の麻生区柿生 (山内, 2008) があるのみで、その後の記録がない。

筆者らは2024年10月26日に生田緑地で幼虫探索を行っていた際、葉を広範囲に食害されたハリギリ *Kalopanax septemlobus* (Thunb.) Koidz. (1925) の幼木を見つけ、その葉裏を見たところ本種の終齢幼虫2個体を発見した (図10)。本種は一か所にまとまって発生することが多いので、この時は既

にほとんどの個体が土中に潜ってしまったと考えられる。この2個体を飼育したところ、翌年4月25日に1♀が羽化した。

野外での成虫は早春から見られることから、翌年 (2025年)4月下旬に幼虫探索を行ったところ、同じ木で発生していることを確認した。この時も発生は終わっていて、ひどく食害された幼木には2個体のみ終齢が残っているだけであった。

食餌植物のハリギリは高木になることが多いが、実生も良く見られるため、今後の調査により他地域でも確認できる可能性が高い。



図10. ヤスジシャチホコの終齢幼虫

(11) エルモンドクガ *Arctornis l-nigrum ussuricum* Bytinski-Salz, 1939

[多摩区] 3exs., 多摩区枡形, 13-X-2024, 横田光邦・三田村瞬確認; 2exs., 多摩区枡形, 26-X-2024, 横田光邦・三田村瞬確認; 9exs., 多摩区枡形, 3-XI-2024, 横田光邦・三田村瞬確認; 2exs., 多摩区枡形, 15-III-2025, 横田光邦・三田村瞬確認

本種の神奈川県内の記録は少なく、川崎市からの記録はなかった (中島・阪本, 2018)。関東地方においては、山地では普通に見られるが、平地では少ないようである。

生田緑地で2024年10月13日に幼虫の観察を行っていたところ、クスノキの辻に植栽されているレンギョウ *Forsythia suspensa* (Thunb.) Vahl の葉表に静止する中齢幼虫を発見した。そこはケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino (1903) の樹下であり、周囲の植物や落葉からも本種幼虫を見出すことができた。その後、生田緑地内のケヤキ樹下を探すと各所で本種が見られ、広範囲に生息していることがわかった。

さらに、同年11月3日の調査では、樹上

の黄葉した葉に静止している越冬前の幼虫を確認、同じ木から糸で地面に降下してくる幼虫も確認した。

地面に降りた幼虫は、数日は他の植物の葉上などでじっとしていたが、やがて姿を消した。3月になり、幼虫が見られた周囲の落葉を調べたところ、落葉層から越冬中の幼虫を見出した(図11)。

この幼虫を持ち帰って飼育したところ、ケヤキの新葉を摂食し脱皮したが、その後衰弱して斃死してしまった。

なお、成虫はムラサキシヤチホコを調査するために訪れた多摩区中野島にて、2025年6月13日に確認した。河川敷にある林内の3メートルほどのヤマグワ *Morus bombycis* Koidz.の高所に止まっていた、撮影している最中に飛び去ってしまった。



図11. エルモンドクガの越冬中の中齢幼虫

(12) ソトウスベニアツバ *Sarcopteron fasciatum* (Wileman & South, 1917)

[多摩区] 3exs., 多摩区枳形, 15-X-2024, 横田光邦・三田村瞬確認; 4exs., 多摩区枳形, 26-X-2024, 横田光邦・三田村瞬確認

本種は伊豆半島以西に分布しているとされていたが(岸田, 2011b)、神奈川県内では2016年に生田緑地(宮内ほか, 2020)、2021年に茅ヶ崎市(緒方ほか, 2021)で散発的に記録されていたため、偶産の可能性があった。その後、2022年4月24日に生田緑地にて2個体の成虫を採集し、生息の可能性がでてきた。

夜間の蛾類調査を2024年10月15日に行っていたところ、スダジイ *Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatus. ex T.Yamaz. et Mashiba subsp. *sieboldii* (1971)の枝先にいる幼虫を見つけ、10月26日にも追加で発見することができた。この時点では種名がわ

からず、飼育したところ翌年3月29日に成虫が羽化し、本種であることが判明した。

本種はスダジイの細い枝先や固い葉を食べていて(図12)、新芽などの柔らかい部分は摂食しなかった。体色は灰色から茶褐色まで濃さに変異が見られた。

初冬の11月から12月にかけて、スダジイの葉裏に薄い繭を作り、その中で蛹化し越冬した。野外でも同様の場所で繭を確認した。

なお、飼育した個体の羽化率が非常に低く、野外では生葉で繭を作ることから、葉が乾燥したことが原因と考える。



図12. ソトウスベニアツバの終齢幼虫

(13) ヤマトホソヤガ *Lophoptera hayesi* Sugi, 1982

[多摩区] 1ex., 多摩区枳形, 5-X-2025, 横田光邦・三田村瞬確認

[宮前区] 1ex., 宮前区水沢, 21-VII-2025, 三田村瞬確認

本種の神奈川県内の記録は、2002年に麻生区柿生で記録された1例のみである(山内, 2008)。産地は局所的で稀な種とされている(岸田, 2011b)。

菅生緑地西地区にある水沢の森で2025年7月21日の夜間、クヌギの実生の葉裏にいる本種の終齢幼虫を採集した。持ち帰ったところ、翌日には蛹化し、その後羽化した。

生田緑地では2025年10月5日に幼虫観察会を行っていた際、参加者のひとりがウバメガシ *Quercus phillyreoides* A.Gray (1858)の新芽を綴っている幼虫を見つけ、確認したところ本種であった。

近隣の記録として、東京都日野市においてアラカシ *Q. glauca* Thunb. (1784)の新芽を綴る中齢幼虫から亜終齢幼虫までの複数

個体を確認している (横田, 未発表)。また、静岡県富士宮市で2019年10月20日にライトトラップを行った際に、多数の成虫が飛来したことがあったが、その後は採れていない (横田, 未発表)。

散発的な記録から、本種は移動性があり他所から飛来していると考えられる。ブナ科植物の新芽の時期と飛来時期が重なる場所で発生が確認されるようである。



図 13. ヤマトホソヤガの終齢幼虫

(14) コフサヤガ *Eutelia adulatricoides* (Mell, 1943)

[宮前区] 1ex., 宮前区水沢, 13-VII-2025, 三田村瞬確認

本種は以前より神奈川県内の広範囲で記録があった。川崎市でも生田緑地・麻生区黒川・麻生区早野の記録が見られる (中島・山本, 2004)。その後、2005年の記録 (ニワカガマニア, 2025) を最後に神奈川県内からは約20年間に渡り記録がなかった。

菅生緑地西地区にある水沢の森にて2025年7月13日に幼虫探索を行っていたところ、クヌギの葉裏で本種終齢幼虫を発見した (図 14)。持ち帰り飼育したところ、同年7月27日に羽化した。

近縁のフサヤガ *Eutelia geyeri* (Felder & Rogenhofer, 1874) の幼虫と似ているが、本種は体全体に白点紋を細かく散布している点で区別できる (杉, 1987)。

本種は北海道から南西諸島まで分布している一方、フサヤガは南西諸島には分布していない。また、フサヤガは成虫越冬するが、本種の越冬態は成虫ではないと考えられている (岸田, 2011b)。沖縄島では1月から4月にも成虫が確認されていることから (服部, 2025)、本州以北では越冬できず、翌年になると再び北上を繰り返しているため、

発生の有無があるものと考えられる。さらに、幼虫は食餌植物の新芽を食べるため、植物の生育時期との関係も発生できる条件になっていると考えられる。



図 14. コフサヤガの終齢幼虫

(15) エゾコヤガ *Chorsia noloides* (Butler, 1879)

[多摩区] 4exs., 多摩区枳形, 3-XI-2024, 横田光邦・三田村瞬確認

本種は神奈川県内全域から記録があり、川崎市は麻生区柿生から記録されている (山内, 2008)。北海道・本州・四国・九州・屋久島と広範囲に分布しているが、食餌植物は不明であった (岸田, 2011b)。インターネット情報によると、ケヤキを食べることが判明している (モフモフケムシ探検隊, 2020)。

生田緑地にて2024年11月3日に秋期の幼虫観察を行っていたところ、民家園奥門付近に生えていたケヤキの幼木に多くの食痕があり、葉裏を見ると小さい幼虫が見つかった。全体が薄い緑色をしていて、頭部と体には黒い斑紋があるのが特徴であった。その後、同年12月1日に成虫1個体が羽化し、本種であることが判明した。他3個体は蛹のまま越冬したが、羽化しなかった。冬期の保管時に乾燥してしまったことが失敗の要因だったようである。

終齢幼虫は斑紋がなく全身緑一色で、摂食は行わず枯れ葉を綴り中で蛹化した。これは前述のインターネット情報にも同様のことが記載されていた。

近隣の記録として、東京都八王子市の高尾山を2025年6月20日に訪れた際、ケヤキの幼木が多く生育している林縁で、本種の若齢から亜終齢まで多数を確認できた。飼育したところ、7月3日から羽化した。生

田緑地の記録が11月であったことから、もしかすると年に3化しているかもしれない。



図 15. エゾコヤガの亜終齢幼虫

(16) ゴマケンモン *Moma alpium* (Osbeck, 1778)

[多摩区] 2exs., 多摩区枳形, 7-IX-2025, 横田光邦確認; 1ex., 多摩区枳形, 9-IX-2025, 三田村瞬確認

[宮前区] 6exs., 宮前区水沢, 5-VII-2025, 三田村瞬確認; 4exs., 宮前区水沢, 13-VII-2025, 三田村瞬確認

本種は神奈川県内では平地から山地まで広く分布している。川崎市では多くの記録があり、最近の記録として生田緑地で2016年6月18日に成虫が採集されている(宮内ほか, 2020)が、その後の記録はなかった。

菅生緑地西地区にある水沢の森で、2025年7月5日にクリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. (1846) より中齢幼虫6個体を確認した。その後、7月13日に同地でコナラより、亜終齢幼虫から終齢幼虫まで4個体を確認した。

生田緑地では2025年9月7日にコナラの葉裏より亜終齢幼虫2個体、9月9日には1個体を見出した(図16)。



図 16. ゴマケンモンの亜終齢幼虫

しばらくの間記録が途絶えていた本種が、2025年は7月と9月に連続して見つかったことは、何かの影響により年次の増減を繰り返しているのではないかと考える。

(17) ホソバミドリヨトウ *Euplexidia angusta* Yoshimoto, 1987

[多摩区] 1ex., 多摩区枳形, 20-IV-2024, 横田光邦・三田村瞬確認

本種は2000年代前半までは、県央西部・丹沢・足柄など西部地域のみ記録があったが(中島・山本, 2004)、その後東部地域にも拡大している。川崎市では麻生区柿生から記録されている(山内, 2008)。生田緑地では、2016・2017年に成虫が採集されている(宮内ほか, 2020)。

生田緑地にて春期の夜間幼虫探索を行っていた際に、奥の池の周囲にあるタマアジサイ *Hydrangea involucrata* Siebold (1829) を摂食している本種亜終齢幼虫を見つけた。今まで本種の食餌植物として、シキミ *Illicium anisatum* L. (1759)、アラカシのみが知られていたもので、新たな記録となる。

本種を飼育したところ、終齢になるとタマアジサイを好まなくなり、シキミとアラカシを与えたところ、シキミを好んで摂食した。採集地の周囲にはシキミは見られなかったことから、キリガ亜科 *Xyleninae* の多くの種類で見られるように広食性なのかもしれない。また、食餌植物のシキミやアラカシは温暖な地域に自生するが、本種はこれら植物が自生していないような山地でも成虫が採れることから、他の食餌植物があるのか、もしくは移動性があるものと考えられる。



図 17. ホソバミドリヨトウの亜終齢幼虫

おわりに

蛾類の幼虫は身近な種類であっても食餌植物や年周経過などの生態がわかっていない種類が多い。また、温暖化の影響などにより分布を拡大・縮小している種類もいるが、成虫の調査だけでは定着しているのかどうかは判断できない。

川崎市は多摩川に沿った平地であり、各所に森が残されているため、蛾類の種類が多い。また、公園などには植樹があり、本来は分布していない樹木が、飛来した蛾類の食餌植物として活用されている。

蛾類幼虫の探索は今まで春から秋までの昼間に行うことが多かった。幼虫は成虫同様、夜行性の種類が多い。また、夏には見つからなかった幼虫も越冬幼虫を探すと見つかることがある。

この報告では、主に都市公園である生田緑地と水沢の森での調査結果が中心であったが、黒川よこみね緑地の調査も行っており、その報告は次報以降に行いたい。

引用文献

- 朝比奈正二郎・鶴岡保明, 1968. 南方定点観測船に飛来した昆虫第 2 報. pp 190-202, *In: 昆蟲 36 (2)*. 東京昆蟲學會, 東京.
- 岸田泰則 (編), 2011a. 日本産蛾類標準図鑑 I. 553 pp., 学研教育出版, 東京.
- 岸田泰則 (編), 2011b. 日本産蛾類標準図鑑 II. 416 pp., 学研教育出版, 東京.
- 宮内隆夫・佐野悦子・成田和子・横田光邦・蛾類研究グループ, 2020. 川崎市北西部の蛾類の記録 (2015 年~2018 年) — 1990 年からの継続調査 —. 川崎市青少年科学館紀要, (30) : 73-120.
- 宮内隆夫・佐野悦子・成田和子・横田光邦・雛倉正人・岩崎信一, 2024. 川崎市北西部の蛾類の記録 (2019 年~2022 年) — 1990 年からの継続調査 —. 川崎市青少年科学館紀要, (34) : 78-110.
- 中島秀雄・阪本優介, 2018. チョウ目 (ガ類). pp. 702-831, *In: 神奈川県昆虫誌 2018 III*. 1038 pp., 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 中島秀雄・山本光人, 2004. チョウ目 (ガ類). pp. 907-1158, *In: 神奈川県昆虫誌 2004 III*. 1336 pp., 神奈川県昆虫談話会, 小田原.

中臣謙太郎・佐野悦子・成田和子・野澤興一・横田光邦, 2009. 生田緑地など川崎市産蛾類目録(2008) — 生物の相互作用の解析に向けて —. 川崎市青少年科学館紀要, (20) : 31-46.

緒方隆・小池叡・真保忠治, 2021. 茅ヶ崎市北部丘陵の蛾類 4. pp.29-39pp, *In: 文化資料館調査研究報告*, (30). 茅ヶ崎市文化資料館, 茅ヶ崎.

佐野悦子・柏崎哲宏・成田和子・山内幹雄, 2001. 生田緑地の蛾相調査報告—2. 川崎市青少年科学館紀要, (12) : 73-81.

杉繁郎 (編), 1987. 日本産蛾類生態図鑑. 453 pp., 講談社, 東京.

鈴木知之・横田光邦・筒井学, 2024. 小学館の図鑑 NEO イモムシとケムシ チョウ・ガの幼虫図鑑. 160 pp., 小学館, 東京.

山内幹雄, 2008. 柿生蛾類調査報告—I(第三回)ヤガ上科. pp.1-47, *In: 神奈川県昆虫報*, (163). 84 pp., 神奈川県昆虫談話会, 小田原.

横田光邦・三田村瞬・平野敦士, 2024. 川崎市北西部の蛾類の記録 (2019 年~2022 年) — 1990 年からの継続調査 —. 川崎市青少年科学館紀要, (34) : 15-16.

インターネット情報

- フッカーS, online. 東京 23 区内の虫 2. 2015. <http://tokyoinsects2.blog.fc2.com/blog-entry-1824.html> (accessed on 2025-December-30).
- 服部貴昭, online. 服部貴昭の備忘録. 2025. <https://hattoritaka.web.fc2.com/ga/fusayaga/kofusayaga.html> (accessed on 2025-December-30).
- モフモフケムシ探検隊, online. センスオブワンダふるイモムシケムシ. 2020. <https://kemushitanken.jugem.jp/?eid=274> (accessed on 2025-December-30).
- ニワカガマニア, online. みんなで作る日本産蛾類図鑑. 2025. http://www.jpmoth.org/Noctuidae/Euteliinae/Eutelia_adulatricoides.html (accessed on 2025-December-30).
- YAMKEN, online. 明石の蛾達. 2022. http://yamken.jp/yam-hp3/purayaaosyatihoko_syougai.html (accessed on 2025-December-30).